

調剤ミスを防ぐためのヒヤリハットの活用

(株)大平 タイヘイ薬局グループ

松田 みどり
城尾 美輝

今日、「医療安全管理体制」が義務付けられ安全性の高い医療が求められている。1つの重大事故の影に、29個の軽症事例、300個のインシデント事例が存在するとハインリッヒの法則では示している。

安全で質の高い医療の追求とレベルアップを図る一助として、タイヘイ薬局グループでは、些細なミス（ヒヤリハット）に着目した。これは、些細なミスの積み重ねが重大なミスにつながる可能性があるためである。些細なミスを減らすことで重大ミスや調剤過誤を減らし未然に防ぐことにつながると考え、ヒヤリハットの分析と改善に取り組んだ。

タイヘイ薬局でヒヤリハットの事例を記入し、ひと月毎に収集・分析・検討・評価し、原因の追究、問題点と注意点、改善点を考え翌月の目標を定め、職員の周知徹底をはかった。

処方せん内容と調剤薬に対する鉛筆でのチェックの実施。規格違いのある薬の配置転換・処方せんの斜め読みの改善などを行ったことで、ヒヤリハットは減少し調剤事故、調剤過誤の減少につながった。我々の些細なミスを減らすことが、重大事故の撲滅のために必要であるとあらためて認識した。

今回のヒヤリハットの取り組みで薬局の問題意識の向上と強化、弱点の存在を把握できたことは大変有意義であった。また監査者の十分な監査は必要であるが、最初の調剤者が十分に注意し調剤を行うことで、調剤ミスの減少につながったと思われる。

今後も医療安全性の維持とレベルアップのため、ヒヤリハットの減少と調剤事故、調剤過誤の撲滅に全力を尽くしていきたいと考えている。また、患者様満足度の向上のために何が出来るかを追及していきたいと思う。

超高齢社会における福祉用具事業者の役割

(株)大平 タイハイM&C

森 雄一郎

2000年4月に高齢化や核家族化の進展により、高齢者の介護を社会全体で支え合う目的として介護保険法が施行されました。介護保険の在宅サービスの一つとして福祉用具の貸与（車いすや特殊寝台など12種目）と購入（腰掛便座や入浴補助用具など5種目）が位置づけられ、一割の自己負担によりサービスが受けられるようになり、これにより福祉用具が国民に認知され利用者が急増し福祉用具業界の市場が急速に拡大する事となりました。

福祉用具は、適切に利用することにより介護を受ける利用者の自立を促すと共に、介護する人の負担軽減が図られます。また、家庭内での転倒や転落事故防止にも繋がり結果として介護費・医療費の削減に貢献できるものと思います。

しかしながら介護保険法施行後、福祉用具利用における死傷事故やひやりはとが年々増加傾向にあります。これを受け経済産業省では「手動車いす」「電動車いす」「在宅用電動介護用ベッド」の3つの福祉用具に関して、工業標準化法（JIS法）に基づくJISマークの表示を新たにスタートさせました。これにより、製品を選ぶ際の安全に対する一つの判断基準となってきました。また、福祉用具業界としては、事故の原因分析と再発防止策の策定が急務となっています。利用者に直接福祉用具の提供を行う、福祉用具専門相談員については、用具の知識や使用技術の向上はもとより、安全に利用していただくための説明技術やコミュニケーション能力、危険予知能力の向上が重要となっています。

今後のさらなる少子高齢化の進展により、在宅医療・在宅介護のニーズはさらに増大していくものと思われます。その中で認知症高齢者数は、2005年で約170万人であるが、2025年には約320万人になると推計されています。要介護者の半数は認知症の影響が認められ、今後も急速に増加していくものと思われる。この事実を福祉用具事業者は理解し、利用者が福祉用具利用における事故防止を図り、在宅生活を安全に安心して過ごせるよう、その使命を果たしていかなければなりません。